

7 H29 国語・数学モニター調査問題冊子

国 語

注 意 事 項

- 1 監督者の指示があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 この問題冊子は30ページあります。問題は第1問から第4問までの4題あります。問題冊子の白紙のページや問題の余白は適宜利用してかまいません。落丁、乱丁または印刷不鮮明の箇所があったら手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答は、必ず黒鉛筆（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペン・万年筆などを使用してはいけません。
- 4 1枚の解答用紙がこの冊子には含まれています。監督者の指示に従って試験開始の前に解答用紙の表と裏の指定欄に、クラス、出席番号を記入しなさい。

記入例

3組5番→0305 D組31番→0431

- 5 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
第1問、第2問は、黒鉛筆（H, F, HB）で解答欄にマークしなさい。例えば、

10

と表示のある問に対して③と解答する場合は、次の（例）のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

（例）

解答番号	解 答 欄
1 0	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

第3問、第4問は、解答欄に縦書きで記入しなさい。

- 6 第1問から第4問まで、各問題を解くのにかったおおよその時間を問題用紙の所定の欄に記録しておいて下さい。
- 7 解答用紙の解答欄に、関係のない文字、記号、符号などを記入してはいけません。また、解答用紙の欄外の余白には、何も書いてはいけません。
- 8 解答用紙は、持ち帰ってはいけません。試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。ただし、問題を他人に知らせたり、公開してはいけません。インターネットでの公開、SNSへの投稿等は厳禁です。

—このページは白紙—

—このページは白紙—

第1問

次のことばに一番意味の似ているものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。なお傍線が引いてある場合はその部分について答えよ。解答番号は①～②0。

未曾有

1

- ⑤ 空前
④ 秘密
③ 不足
② 驚異
① 未熟

一時しのぎ

2

- ⑤ その場だけの間に合わせ
④ がまんして辛抱すること
③ 苦しみから逃れること
② 出来心
① 少しの間

伏線を張る

3

- ⑤ 仮定する
④ 前もってほめかす
③ 警戒する
② 罍をしかける
① はつきりと区別する

外国間の確執

4

- ⑤ やりとり
④ 友好関係
③ 平和交渉
② 取引
① もめごと

9 尊大 そんたい

- ⑤ 尊敬に値する そんけい あたい
 ④ 心が寛い こころ ひろ
 ③ 偉大 いだい
 ② 膨大 ぼうだい
 ① 横柄 おうへい

匙を投げる さじをな

7

- ⑤ 好き嫌いをする すき きらい
 ④ あきらめる あきら
 ③ 非常識 ひじょうしき
 ② 乱暴な様子 らんぼう ようす
 ① ひどく怒る おこ

5 二の腕 ふたのうで

- ⑤ 利き腕ではない方の手 ききうで ほうのて
 ④ 予備の考え よびかんが
 ③ 肘 ひじ
 ② 上腕 じょうわん
 ① 補佐をする人 ほさをするひと

10 辛辣 しんらつ

- ⑤ 何物にも拘束されないこと なにものにもこうそく
 ④ 非常に塩辛いこと ひじょう しおから
 ③ 立場がなくなること たちば
 ② 非常に手きびしいこと ひじょう
 ① 泣きたいほどつらいこと な

いやおうなしに

8

- ⑤ 我慢できないくらいひどく がまん
 ④ 有無を言わず うむ
 ③ 異存がない いぞん
 ② 嫌気を起こさないで いやけ
 ① 肯定否定ともはっきりしないで こうていひてい

造詣が深い ぞうけい

6

- ⑤ 神社に参詣する じんじや さんけい
 ④ よく考え抜く かんが
 ③ 深く通じている ふか
 ② 造形性に富む ぞうけいせい
 ① 創造力がある そうぞうりよく

11 毫も

- ⑤ ④ ③ ② ①
 質素に 少しも 固く 強引に 何度も

13

婉曲に

- ⑤ ④ ③ ② ①
 断続的に 不正確に 遠回しに 優雅に 率直に

15

気がおけない

- ⑤ ④ ③ ② ①
 気持ちが悪い 気が小さい 遠慮がいらぬ 気分が落ち着かない 気を許せない

16

無常

- ⑤ ④ ③ ② ①
 移り変わる事 冷たい事 動かない事 非常識な事 残酷な事

12

懐柔する

- ⑤ ④ ③ ② ①
 抱きしめる 手なずける 優しくいたわる 気持ちを落ち着ける 賄賂をもらう

14

他愛ない

- ⑤ ④ ③ ② ①
 むつつりしている事 なんといいこともない 孤独な事 他にいない事 一途な事

嫡流 ちやくりゅう

17

- ⑤ ④ ③ ② ①
- ⑤ 亜流 ありゅう
- ④ よどんだ流れ な
- ③ 清らかな流れ きよ
- ② 正当な流れ せいとう
- ① 激しい流れ はげ

妙案 みょうあん

18

- ⑤ ④ ③ ② ①
- ⑤ 非常識な案 ひじょうしき
- ④ 奇妙な考え きみょう
- ③ 古い考え ふる
- ② よい思いつき おも
- ① ささやかな提案 ていあん

無償の行為 むしょう

19

- ⑤ ④ ③ ② ①
- ⑤ 心が冷たい こころ
- ④ 欲が深い よく
- ③ 責任を取らない せきにん
- ② 利益を得ない りえき
- ① 利益をむさぼる りえき

虎の子 とら

20

- ⑤ ④ ③ ② ①
- ⑤ 大切なもの たいせつ
- ④ どうしても欲しいもの ほ
- ③ 危険なもの きけん
- ② ひ弱なもの よわ
- ① たくましいもの

問題を解くのにかった
おおよその時間

分

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。

次の文章は、中沢けいの小説『楽隊のうさぎ』の一節である。学校嫌いで引つ込み思案だった克久は、花の木中学校に入学後、勧誘されて吹奏楽部に入り、夏の地区大会さらには県大会をめざして練習づけの毎日を送っていた。以下はそれに続く部分である。これを読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。

譜面をパートごとに練習して、セクションごとに音として仕上げていくのは、山から石を切り出す作業だが、そのごろごろした石がようやくしつかりとした石組みになろうとしていた。森勉が細やかに出す指示は、石と石の接続面をびつたりと合わせていく仕事だった。

この日、何度目かで「くじやく」をさらっていた時、克久はばらばらだった音が、一つの音楽にまとまる瞬間を味わった。スラブ風の曲だが、枯れ草の匂いがあったのである。斜めに射す入り陽の光が見えた。それは見たことがないほど広大な広がりを持っていた。(ア) いわく言い難い哀しみが、絡み合う音の底から湧き上がっていた。悔しいと憎らしいとか、そういういらいらするような感情は一つもなくて、大きな哀しみの中に自分がいるように感じた。つまり、音が音楽になろうとしていた。地区大会前日だった。

オーボエの鈴木女史の苦情から有木部長が解放されたのは、地区大会の翌日からだ。一年生にもようやく自分たちが求められているものがどの水準にあるのかが解わつたのだ。ベンちゃんが初期の頃は苦勞していた部員の統制は、今では指揮者を煩わせることなく鈴木女史のようなメンバーで守られているのだから有木部長もそうそう閉口という顔もできなかつたが、とにもかくにも苦情を聞かずにすむのは喜ばしい。「音になつてない」という森勉の決まり文句をはじめとして、「やる気があるのか」とか「真面目にやれ」とか言われる理由がのみ込めたのだ。B 怒られるたびに内心で「ちゃんとやっ

「てるじゃないか」とむくれていた気持ちがつつかり消えた。

スゴイ学校は他にいくらでもあった。

今年こそは地区から県大会を突破しようという気迫で迫ってくる学校があった。

その中でも、課題曲に「交響的譚詩」を選んだある中学校の演奏は、克久の胸のうさが躍り上がるような音を持つていた。

花の木中学とは音の質が違った。花の木中学はうねる音だ。大海原のうねりのような音を作り出していった。ところが、その学校の音はもつと硬質だった。

「スゲエナ」

有木がつぶやいた隣で克久は掌を握り締めた。

「(イ) 和声理論の権化だ」

密かに音楽理論の勉強を始めていた宗田がそう言い放つのも無理はない。

最初のクラリネットの研ぎ澄ました音は、一本の地平線を見事に引いた。地平線のかなたから進軍してくる騎馬隊がある。木管は風になびく軍旗だ。金管は四肢に充実した筋肉を持つ馬の群れであった。打楽器が全軍を統括し、西へ東へ展開する騎兵をまとめあげていた。

わずか六分間のこととはとても思えない。

遠く遠くへ連れ去られた感じだ。

克久の目には騎兵たちが大平原に展開する場面がはっきり見えた。宗田の脳髄には宇宙工学で必要とされるような精密機器の設計図が手際良く作製される様子が浮かんでいた。宗田は決して口に出しては言わなかったが、最近、人が人間的なと呼ぶような感情に嫌悪を感じ始めていた。

うんと唸った川島が、

「負けた」

といった一言ほど全員の感情を代弁している言葉は他になかった。

「完成されているけど、音の厚みには欠けるよ」

「負けた」と言う全員の感情、とりわけ一年生たちの驚きを代弁した川島の一言だけでは、出番を控えていた花の木中学吹奏楽部は気持ちの立て直しはできなかつたかもしれない。川島の唸り声は全員の気持ちは代弁していたが、気持ちを向ける方向の指示は持っていなかった。

「完成されているけど、音の厚みには欠けるな」

こんなことを言うOBがいなかったら、自分たちの出番前だということも忘れただろう。

「やっぱり、中学生はね。技術が良くても音の量感には乏しいよ」

「うちはまあ、中学生にしては音の厚みはあるしさ」

現役の生徒の後方の席でOBたちはこんな批評をしていたのだ。昨日まで、鳥の鳴き声みたいに聞こえたOBの言葉が、今日はちゃあんと人間の話し声に聞こえる。

これは克久にとって、驚きに値した。

克久がいちばん間抜けだと感じたのは百合子(注7)だった。なにしろ、地区大会を終わって家に戻って最初に言ったのは次の一言だ。

「やっぱり、強い学校は高い楽器をたくさん持っているのね」

それを言つては、(ウ) みもふたもない。言つてはならない真実というものは世の中にはある。それに高価な楽器があれば演奏できるというものでもない。演奏する生徒がいて、初めて高価な楽器がものを言うのだなんてことを、克久は百合子に懇切丁寧に説明する親切心はなかった。

「小学生とはぜんぜん違う」

実は百合子も少し興奮気味だったのである。克久には小学校時代は太古の昔、悠久のかなただったが、百合子にはわずか六カ月前にもならない。だいたい、その頃、銀行(注8)に申し入れた融資の審査がまだ結論が出ていなかった。伊万里いまり焼の皿の並んだテーブルをはさんで恐竜と宇宙飛行士が会話しているという比喩ひゆで良いのかどうか。そのくらい、時の流れの感覚が食い違っていた。これだから中学生は難しい。百合子がうれしい時に使う古典柄の伊万里が照れくさそうに華やいでいた。この皿はうれしい時も出番だが、時には出来合いのロールキャベツを立派に見せるためにお呼びがかかることもあった。

翌日から一年生は「やる気あるのか」と上級生に言われなくなった。帰宅は毎日九時を過ぎた。

県大会の前日はさすがに七時前に克久も家に帰って来た。「ただいま」と戻った姿を見た百合子はたちまちすべ全てを了解した。了解したから、トンカツなどを揚げたことを後悔した。大会にカツなんて、克久流に言えば「かなりサムイ」じゃなかった。

「ベンちゃんが今日は早く風呂ふろに入って寝ろってさ」

「そうなんだ」

百合子はこんな克久は見たことがなかった。なんでもなく、普通そうにしているけれども、全身に緊張があふれていた。それは風呂場で見せる不機嫌な緊張感とはまるで違った。ここに何か、一つでも余分なものを置いたら、ぶつんと糸が切れる。そういう種類の緊張感だった。

彼は全身で、いつもの夜と同じように自然にしてほしいと語っている。「明日は大会だから、闘いにカツで、トンカツ」なんて駄ジャレは禁物。

もっとスマートな応対を要求していたのである。会話だって、音楽の話もダメなら、大会の話題もダメであった。

そういうことが百合子にも解る顔をしていた。こんなに穏やかな精神統一のできた息子の顔を見るのは初めてだ。一人前の男である。誇りに満ちていた。

もちろん、彼の築き上げた誇りは輝かしいと同時に危ういものだ。

「お風呂、どうだった」

「どうだったって?」

「だから湯加減は」

音楽でもなければ、大会の話でもない話題を探そうとすると、何も頭に浮かばない。湯加減と言われたって、家の風呂は温度調整のできるガス湯沸かし器だから、良いも悪いもないのである。

「今日、いい天気だったでしょ」

「毎日、暑くてね」

「……」

練習も暑くて大変ねと言いかけて百合子は黙った。

「……」

克久も何か言いかけたのだが、目をぱちくりさせて、口へトンカツを放り込んでしまった。

「あのね、仕事の帰りに駅のホームからうちの方を見たら、夕陽が斜めに射して、きれいだった」

「そう。……」

なんだか、ぎこちない。克久も何か言おうとするのだが、大会に関係のない話というのは探しても見つからない。それでも、その話はしたくなかった。この平穏な気持ちを大事に、そっと、明日の朝までしまっておきたかった。

C 初めて会った恋人同士のような変な緊張感。それにしても、百合子も克久もお互いを知り過ぎていた。百合子は「こいつは生まれる前から知っているのに」とおかしくて仕方がなかった。

「……」

改めて話そうとすると、息子と話せる雑談って、あまり無いものだなと百合子は妙に感心した。

「……」

克久は克久で、何を言っても、話題が音楽か大会の方向にそれていきそうで閉口だった。

「これ、うまいね」

こういうことを言う時の調子は夫の久夫が百合子の機嫌を取るのに似ていた。ぼそつと言ってから、少し遅れてにやりと笑うのだ。

「西瓜でも切ろうか」

久夫に似てきたが、よく知っている克久とは別の少年がそこにいるような気もした。

「……」

西瓜と言われれば、すぐ、うれしそうにする小さな克久はもうそこにいない。

「……」

百合子は西瓜のことを聞こうとして、ちょっとだけ息子に遠慮した。彼は何かを考えていて、ただぼんやりとしていたわけではない。少年の中に育ったプライドはこんなふうには、ある日、女親の目の前に表れるのだった。

(注) 1 森勉——花の木中学校の音楽教師。吹奏楽部の顧問をつとめている。部員たちからは「ベンちゃん」と呼ばれている。

2 「くじゃく」——ハンガリーの作曲家コダーイがハンガリー民謡「くじゃく」の旋律をもとに作った曲。

3・4 鈴木女史・有木部長——ともに吹奏楽部の上級生。

5 「交響的譚詩」——日本の作曲家露木正登が吹奏楽のために作った曲。

6 克久の胸のうさぎ——克久が、自分の中にと感じて「うさぎ」のこと。克久は、小学校を卒業して間もなく花の木公園でうさぎを見かけて以来、何度かうさぎを見つけては注意深く見つめていた。吹奏楽部に入った克久は、いつの間にか一羽の「うさぎ」が心に住み着き、耳を澄ましているように感じ始めていた。

7 百合子——克久の母。夫の久夫は転勤したため、克久とふたりで暮らしている。

8 銀行に申し入れた融資——伊万里焼の磁器を扱う店を出すため、百合子が銀行に借り入れを申し入れた資金のこと。

問1 傍線部(ア)～(ウ)の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ

選べ。解答番号は

21

23。

(ア) いわく言い難い

21

- ① 言葉にするのが何となくはばかられる
- ② 言葉では表現しにくいと言うほかはない
- ③ 言葉にしてしまっはまったく意味がない
- ④ 言葉にならないほどあいまいで漠然とした
- ⑤ 言葉にするとすぐに消えてしまいうな

(イ) 和声理論の権化

22

- ① 和声理論で厳しく律せられた演奏
- ② 和声理論で堅固に武装した演奏
- ③ 和声理論を巧みに応用した演奏
- ④ 和声理論を的確に具現した演奏
- ⑤ 和声理論にしっかりと支えられた演奏

(ウ) みもふたもない

23

- ① 現実的でなくどうにもならない
- ② 大人気なく思いやりがない
- ③ 露骨すぎて話にならない
- ④ 計算高くてかわいげがない
- ⑤ 道義に照らして許せない

問2 傍線部A「音が音楽になろうとしていた」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、

次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 24。

- ① 指揮者の指示のもとで各パートの音が融け合い、具象化した感覚や純化した感情を克久に感じさせ始めたこと。
- ② 指揮者に導かれて克久たちの演奏が洗練され、楽曲が本来もっている以上の魅力を克久に感じさせ始めたこと。
- ③ 練習によって克久たちの演奏が上達し、楽曲を譜面通りに奏でられるようになったと克久に感じさせ始めたこと。
- ④ 各パートの発する複雑な音が練習の積み重ねにより調和し、圧倒するような迫力を克久に感じさせ始めたこと。
- ⑤ 各パートで磨いてきた音が個性を保ちつつ精妙に組み合わせさり、うねるような躍動感を克久に感じさせ始めたこと。

問3 傍線部B「怒られるたびに内心で『ちゃんとやってるじゃないか』とむくれていた気持ちがつかり消えた」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 25。

- ① 日々の練習をきちんと積み重ねているつもりでいた一年生だったが、地区大会で他校の優れた演奏を聴いて、めざすべき演奏のレベルが理解できたと同時に、まだその域に達していないと自覚したから。
- ② 地区大会での他校の演奏を聴いて自信を失いかけた一年生だったが、演奏を的確に批評するOBたちが自分たちの演奏を音に厚みがあると評価したので、あらためて先輩たちへの信頼を深めたから。

③ それまでばらばらだった自分たちの演奏が音楽としてまとまる瞬間を地区大会で初めて経験した一年生は、音と音楽との違いに目覚めると同時に、自分たちに求められている演奏の質の高さも実感したから。

④ 地区大会で他校のすばらしい演奏を聴いて刺激を受けた一年生は、これからの練習を積み重ねていくことで、音楽的にさらに向上していこうという目標を改めて確認し合ったから。

⑤ 自分たちとしては十分に練習してきたつもりでいた一年生だったが、地区大会での他校の堂々とした演奏を聴き、自信をもって演奏できるほどの練習はしてこなかったと気づいたから。

問4 傍線部C「初めて会った恋人同士のような」とあるが、この表現は百合子と克久のどのような状態を言い表した

のか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 26。

① 自分の好意を相手にきちんと伝えたいと願っているのに、当たり障りのない話題しか投げかけられず、もどかし

く思っている。
② 互いのことをよくわかり合っているはずなのに、相手を前にしてどのように振る舞えばよいかわからず、とまど

っている。
③ 本当は心を通い合わせたいと思っっているのに、話をしようとすると思照れくささからそっけない態度しかとれず、

悔やんでいる。
④ 相手の自分に対する気配りは感じているのに、恥ずかしくてわざと気付かないふりをしてしまい、きまり悪さを

感じている。
⑤ なごやかな雰囲気を保ちたいと思って努力しているのに、不器用さから場違いな行動を取ってしまい、笑い出し

たくなっている。

問5 傍線部D「少年の中に育ったプライドはこんなふうには、ある日、女親の目の前に表れるのだった」とあるが、その

説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 27。

① 充実した練習を通して自ら育んできた克久のプライドは、県大会に向けての克久の意気込みと不安を百合子に感じさせるものであった。このプライドは張り詰めて折れそうな心を自覚しながら独り大会に備える自立した少年の姿を通して不意に百合子の前にあらわれ、幼いと思っていた息子が知らないうちに夫に似てきたことを百合子に感じさせた。

② 仲間たちとの交わりの中で自ら育んできた克久のプライドは、仲間への信頼と自分がかげがえのない存在であるという自覚を百合子に感じさせるものであった。このプライドは自らの緊張感を百合子に悟らせまいとしている大人びた少年の姿を通して不意に百合子の前にあらわれ、息子の成長に対する喜びを百合子に感じさせた。

③ 努力を重ねるなかで自ら育んできた克久のプライドは、克久のおごりと油断を百合子に感じさせるものであった。このプライドは他人を寄せつけないほどの緊張を全身にみなぎらせている少年の姿を通して不意に百合子の前にあらわれ、大会を前にした息子の気負いをなだめ、落ち着かせなければならぬという思いを百合子に感じさせた。

④ 吹奏楽部の活動に打ち込むなかで自ら育んできた克久のプライドは、りりしさともろさを百合子に感じさせるものであった。このプライドは高まった気持ちで静かに内に秘めた少年の姿を通して不意に百合子の前にあらわれ、よく知っている克久の姿とともに、理解しているつもりでいた克久ではない成長した少年の姿も百合子に感じさせた。

⑤ 同じ目的を持つ仲間たちとの協力を通して自ら育んできた克久のプライドは、どんなことにも動じない自信と気概を百合子に感じさせるものであった。このプライドは百合子を遠慮させるほど堂々とした少年の姿を通して不意に百合子の前にあらわれ、克久がこれまでとは別の少年になってしまったという錯覚を百合子に感じさせた。

問6 この文章の叙述の説明として適当でないものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。

解答番号は

28

 ・

29

 。

- ① 本文では、「スゴイ学校は他にいくらでもあった」「スゲエナ」「サムイ」などをカタカナで表記することで、これらの表現に話し言葉らしさや若者言葉らしさを与えている。
- ② 百合子と克久の会話文で多用されている「……」は、適当な言葉を見つけられなくて会話を続けられないでいる二人の様子を効果的に表現している。
- ③ 本文では、県大会の前日までのできごとが克久の経験した順序で叙述されており、このことによって登場人物の心情の変化が理解しやすくなっている。
- ④ 本文9ページには比喻を用いて音楽を表現している部分がある。そこでは、「大海原のうねりのような音」といった直喩だけを用いて隠喩を用いないことで、音楽の描写をわかりやすいものにしてしている。
- ⑤ 本文10ページの「昨日まで、鳥の鳴き声／＼今日はちゃんんと人間の話し声に聞こえる」の文末が現在形になっていることで、OBたちの話を聞いたときの克久に読み手がより共感しやすくなっている。
- ⑥ 本文11ページの地区大会の後で克久が帰宅した場面では、あえて「恐竜と宇宙飛行士」といった大げさな対比を用いることによって、母親と息子のずれの大きさを強調している。

問題を解くのに
おおよその時間

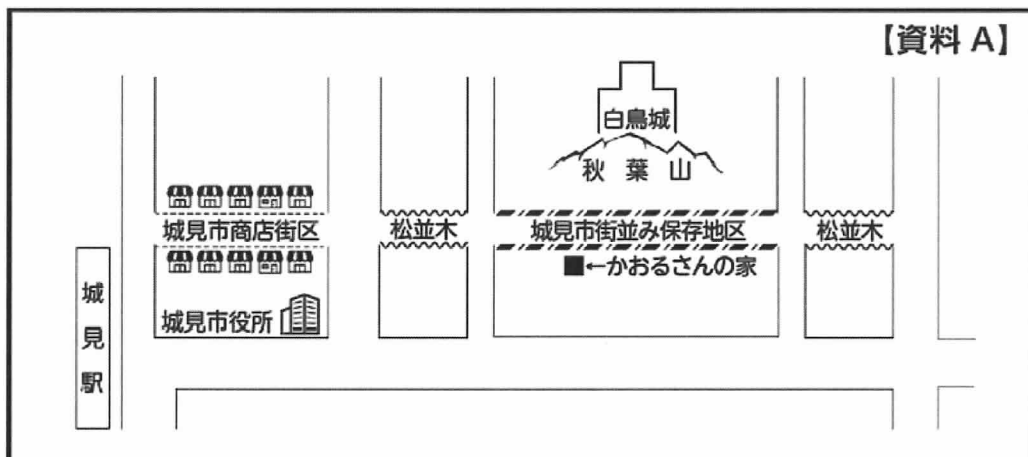
--

分

—このページは白紙—

第3問 次の文章と図を読み、後の問い（問1～4）に答えよ。

かおるさんの家は、【資料A】の「城見市街並み保存地区」に面している、伝統的な外観を保った建物である。城見市が作成した景観保護に関する【資料B】「城見市『街並み保存地区』景観保護ガイドラインのあらまし」と、かおるさんの父と姉の会話を読み、後の問い（問1～4）に答えよ。



城見市「街並み保存地区」景観保護ガイドラインのあらまし

ガイドラインの基本的な考え方

城見市「街並み保存地区」一帯は、市名の由来にもなっている秋葉山山頂に築かれた白鳥城下を通る、旧街道の伝統的な道路遺構と街並みからなります。その街並みと自然とが呼応し、そこに集まる人々によって文化と共に育まれてきたところにその特徴があります。

私達は、「街並み保存地区」に限らず、城見市が育んできた歴史、文化の特質を尊重し、優れた自然と景観に対して十分配慮するとともに、この自然と景観を維持、保全、育成しなければなりません。そのためには、住民、企業、行政など全ての人々が城見市の景観に対するさらなる意識の向上を図り、貴重な財産であることを深く認識し、この美しい景観を将来の世代に引き継ぐ責務を負っているのです。



景観保護の目標

- ア 市役所周辺から商店街区にかけてのにぎわいを連続させるとともに、都市の顔として風格のある空間づくりを進めます。
- イ 秋葉山の眺望や松並木などの景観資源を活用し、親しみがあり愛着と魅力を感じる街並みを形成していきます。
- ウ 広域からの外来者のある、観光や伝統行事などの拠点にふさわしい景観づくりを進めます。



景観保護の方針

- ・松並木及び「街並み保存地区」の植栽を保全し、街並みや秋葉山の景観との調和を図ります。
- ・建築物の壁面、広告物や看板の色彩については、原色などの目立つものを避け、伝統的建築物との調和を図ります。
- ・個人住宅を含めて、建物外面の色調を落ち着いたものとし、壁面の位置や軒高をそろえます。
- ・一般及び観光客用の駐車場や街路のごみ箱、ごみ収集時のごみ置き場は目立たないように工夫します。
- ・「街並み保存地区」は自動車の出入りを制限し、ゆとりある歩行空間を確保します。
- ・議会等との協議を通して、景観を保護するために必要な予算があれば、その計上を検討していきます。

姉 「(住民対象の説明会から帰ってきた父に) お疲れさま……説明会、どうだった？」

父 「ああ、これ、資料だよ。(資料B)を姉に渡す) ……最近、うちの周りもそうだけど、空き家が多くなってきたよね。

この間も、少し向こうの空き家の裏口のカギが壊されたりしたそうだけど、このままだと治安の面が不安だ。それが取り壊されても、その跡地に『街並み保存地区』っていう名前にふさわしくない建物が建てられてしまうかもしれない。地元の企業がまちづくりの提案をしているという話も出ているしね。そこで市としては、ここでガイドラインを示して景観を守ること、この一帯を観光資源にしていきたいという計画らしいね。つまり、一石二鳥を狙った訳さ。」

姉 「なるほどね。それで、うちの周りはどうなるの？」

父 「うちの前の道路、『ゆとりある歩行空間を確保』っていう話だったから、電柱を移動させるか、電線を埋設するかになるんだろうけど、狭いままだってことには変わりないな。」

姉 「我が家の外壁を塗り直そうかって時は、その費用は市が負担してくれるの？」

父 「多分、それはないんじゃないか。市の予算は、公共の環境整備に使うだろう。」

姉 「あれ、そうなの？ ……とここでお父さんは、このガイドラインの導入について、どう思ってるの？」

父 「私は反対だよ。住民の負担が大きすぎるね。外壁の塗装も建物の改築も、すべて周辺の景観に配慮した上で、適切な対応を自己負担で考えなければいけない。これじゃあ、引越した方が気が楽だ。かえって空き家を増やすだけだと思っよ。」

姉 「でも、今のままだと、ここはどんどん衰退していきただけだよな？ 住民がいなくなると、この街の文化や歴史の一部が途絶えてしまうよね。この辺って、道路も狭いし、家も古いけど、この街並み、私は結構好きだな。だから、マイナスだと思ってることでも、逆にこの街の魅力にしたなら、観光客にPRすることもできるんじゃないかな。街並みを整備して、地域の魅力づくりに成功したら、ここから出て行く人が少なくなると、空き家も減るよ。そうしたら、この街は守られるよね。」

父 「それは希望的な推測だし、感情論に過ぎないね。実際問題として、ガイドラインの通り、古い街並みを残すとしたら、家を改築する時に、デザイン料にせよ材料費にせよ、通常以上の自己負担が必要になる。これじゃ、地域住民の同意は得られないよ。」

姉 「私は、ある程度の住民の自己負担は必要だと思う。こういう地域づくりって、行政に任せっぱなしにしたままで、私たち地域住民は受け身でいいのかな。それに、ガイドラインには広告や看板の色彩のことも書いてあるけど、これからは、自然環境も含めて、そうした住環境も大事にしないといけないと思うの。確かに色々と制約があるし、お金もかかるけど、『地域を守り、地域の魅力を作っていくのは、他でもない私たち自身なんだ』っていう意識を持って、私たちの生まれ育ったこの街を守っていくためには、ある程度の自己負担も必要だよ。」

父 「私も、すべて行政に任せちゃえばいいとは思ってないよ。だけど、個人の家や庭に手を入れることは、本質的にその人の自由意志だし、住民の利便性を考えた道路整備は間違いなく行政の仕事だ。ところがガイドラインに従うと、古い家と思うように直すこともできないし、狭い道もそのまま使うっていう不自由を、住民に強いることになる。現実的に発生する問題から目をそらして、感情論で地域づくりを語っても、そんなものは絵に描いた餅に過ぎないよ。」

姉 「じゃあ、このまま何もしなくていいの？ 街がさびれていく様子を、ただ黙って見てろってこと？」

問1 会話文中の傍線部「一石二鳥」とは、この場合街並み保存地区が何によってどうなることを指すか、「一石」と「二鳥」の内容がわかるように四〇字以内で答えよ（ただし、句読点を含む）。

問2 ある会社が、「街並み保存地区」の活性化に向けた提案書を城見市に提出した。次の文章はその【提案書の要旨】である。これに対して、城見市は、ガイドラインに従って計画の一部を修正するよう、その会社に求めた。どの部分をどのように修正することを求めたと考えられるか、三十五字以内で述べよ（ただし、句読点を含む）。

【提案書の要旨】

複数の空き家が連続して並んでいる場所を再利用した商業施設を作りたい。古くて味わいのある民家を最大限活用したカフェ、洋服屋、本屋、雑貨屋、美容院などを総合的にプロデュースすることで、「一度は行ってみたい」まちづくりに貢献したい。初めて訪れる観光客にも親切なように、目につきやすい色の看板を数多く配置し、行きたい店をすぐに探せる配慮をする。また、住民にも利便性の高い店の誘致を進める。

問3 会話文から読み取ることができる、父と姉の「景観保護ガイドライン」の導入についての議論の対立点を、「〴〵の是非。」という文末で終わるように二〇字以内で述べよ（ただし、読点を含む）。

問4 父と姉の会話を聞いて、改めてガイドラインを読んだかおるさんは、姉に賛成する立場で姉の意見を補うことにした。かおるさんはどのような意見を述べたと考えられるか、次の条件に従って述べよ（ただし、句読点を含む）。

条件1 全体を二文でまとめ、合計八〇字以上、一二〇字以内で述べる。なお、会話体にしなくてよい。

条件2 一文目に、「ガイドラインの基本的な考え方」と、姉の意見が一致している点を簡潔に示すこと。

条件3 二文目に、「経済的負担」を軽減する方法について述べること。

条件4 条件2・条件3について、それぞれの根拠となる記述を【資料B】「城見市『街並み保存地区』景観保護ガイドラインのあらまし」から引用し、その部分を「」で示すこと。なお、文中では「ガイドライン」と省略してよい。

問題を解くのに
かかった
おおよその時間

分

—このページは白紙—

第4問 次の文章を読んで、後の問い（問1～5）に答えよ。

よく知られているように、ヘロドトスが著した『歴史』の表題は、冒頭の文章に含まれる“historiae”（「物語」）というギリシア語に由来し、この語がそのまま今日でいう「歴史」（ヒストリー）の語源となった。本質的な意味でも、「歴史」は単なる出来事の⁽¹⁾ ケイキではなくて、この出来事の「物語」である。とはいっても、お伽話の物語と「歴史」とのあいだには、大きな違いがある。それは前者が「虚構」であるのに対して、後者が実際の出来事の「探求」（“historiae”の別訳）だからである。しかし「実際の出来事」なるものはどこに見出されるのだろうか。素朴実在論の立場に立つのではないが、^(ア) それが語り手から独立に存在するものではないということは、異論を呼ばないであろう。物理現象といえども、厳密には観察者を通してしか記述され得ず、しかもこの観察者の存在が観察対象の現れ方に影響を与えらるという。まして歴史現象であれば、それが語り手の視点と判断とを映し出すという仕方でも語られることは、不可避となる。ここから、「歴史科学は学問たり得るのか」とか、「物語を語る文章の条件は何か」とかいう問いが生じるのである。前者は新カント学派以来の問いである。そして後者はここ数十年の「物語理論」へと結実した。

しかし、こういった従来の学問的成果を承認しつつも、なお問わねばならないことがある。すなわち、ここでは学問化に先立つ「聞くこととしての歴史」、ないし物語る以前の「裸の事実性」それ自体は、暗黙裡に前提されてついに主題化されなかったのではないかと。裸の事実性は、われわれがこれを表象して得られる像あるいは情報と、同一視されがちである。そしてその違いに気づいた場合でも、たいていはそのままに放置されて、その根源を問うということはあまりない。それは、通常は忘却されている。

もちろんそのような事態は、忘却されている事柄が自明と思われているからであり、かつ事柄は対象化したり客観化したりすることのできない性質を持っているからでもある。そうであれば、それは「語り得ないことについては沈黙せねばならない」というヴィトゲンシュタインの語によって、対象化の試みから守られなければならないとも考えられる。しか

し、ヴィトゲンシュタインの語には、こうつけ加えることができる。すなわち、「それについては聞き入ることのみができる」と。「聞く」ときとは、「沈黙する」ときでもある。逆に、人は沈黙することによって聞くことをなし得る。もちろん「何を聞くのか」は、そのつどに異なっている。歴史においては、それは何だろうか。その問いとともに、「聞くこととしての歴史」もまた展開の緒につくことになる。

この展開は、次のような素朴な問いから始まる。すなわち、私が何かの事実について「語る」とき、私はそれに先立つてこの事実と接しており、事実それ自身の語りに「聞き入」っているのではないだろうか。「事実それ自身の語り」といえば妙に聞こえるかもしれない。普通には、「語る」働きは人間だけのものと思われているからである。しかし考えてみると、有るといえるものはすべて、それぞれに自分自身を「表現」している。路傍の小石ひとつすら、路傍の小石というものを表現している。小石の自己表現を広い意味での「語り」と呼ぶなら、小石の現前の場所でわれわれは、小石に「聞き入」っている。芭蕉の言う「物に入る」という有り方が、そこに成立している。あるいは西田哲学の出発点となった「純粹経験」という事態が、そこにある。

念のために付け加えるなら、「純粹経験」は「色を見、音を聞く刹那」にも成立し、また「触れること」や「嗅ぐこと」といった感覚においても成立するから、ことさらに「聞くこと」だけを浮き彫りにしなければならない理由はない。しかし純粹経験が「歴史経験」として自発自展しゆく場合には、それは歴史経験の場にふさわしい名を得ることを前提とするであろう。「歴史」が「語ること」として成立するなら、その根底をなす純粹経験の名は、「聞くこと」となるであろう。語ることと聞くこととは、⁽²⁾イツツイの作用関係にあるからである。事物を語るには、まずその事物に「聞き入ること」が要請される。

ここで、さらにいくつかの疑義が想定される。まず、「聞くこととしての歴史」は「歴史」という概念からして、原理的に無理を含むのではないかと。なぜなら、「歴史」とは一般的な意味からすれば、「史料」という形で保存された過去世界を実証的に吟味し、これを再構成したもの、過去の事実を記録として語るもの、だからである。語られた事実と出会っ

た瞬間は、原則として過ぎ去ってしまった。事実それ自身に「聞き入る」場が消えたところ、そこが「歴史」の始まりではないのかと。

しかし、まさしく過去世界の実証的な吟味と再構成において、史料それ自身の語りを「聞く」ということが、含まれていくはずである。史料に「聞き入る」ことは、史料のいかなる解釈にも先立っている。特定の思い入れとか、いわんや特定のイデオロギー的なバイアスを排除して、史料そのものを語らしめようとすればするほど、「聞くこと」はますます必要になってくる。

ここで、さらに疑義がつづくであろう。すなわち、「聞くこととしての歴史」といった元初的な事態があるとして、それを敢えて主題化したり、ことさらにそこへ眼を向けたりする必要などあるのかと。それは無意識の底に沈めておいて、何らの害も無いのではないのかと。種々の歴史論争のなかで、そして歴史哲学のなかでも、「聞くこととしての歴史」が ついに主題化されなかったということは、あたかも胚性幹細胞が生体のなかでそれ自体としては消えるように、歴史記述のなかで消えてよいからではないだろうか。

しかし、ちょうど今日の医学において胚性幹細胞の重要性が急に認識され始めたように、「聞くこととしての歴史」も、⁽¹⁾それを自覚にもたらずことは現今の歴史意識にとつて極めて重要な意味をもつ、ということとは考えられないだろうか。たとえば日本の過去の戦争行為をめぐっての議論は、靖国神社参拝や領土問題等々が近隣諸国の政治事情と絡みあうという仕方⁽²⁾で、終焉をみる様子はない。日本だけではない。ヨーロッパでも中東でも、それぞれの民族の長く複雑な歴史は単なる過去として消えずに、新たな紛争の⁽³⁾ヨウコウ口⁽⁴⁾となって現在を熱く規定している。そういう諸論争あるいは諸紛争のなかにあつて、いかなる歴史認識のなかにも含まれる胚性幹細胞的な事実経験は、そこへ聞き入るときは、戦場の真只中⁽⁵⁾に対峙する軍勢のあいだのような、緊張を孕んだ静けさの場所となるであろう。そこは、一切の諸論争と諸紛争が静けさに立ち返るような場所である。俗に言う「頭を冷やす」ときとは、そのような静けさの場所に立ち返るといふ意味を含むであろう。過去の経緯をめぐる諸々の「歴史観」の形成に先立って、これらの歴史観がよって立つ脚下の場所が、

そこに開かれているのである。極度に緊迫した議論状況のなかで、このような場所を照顧することは、迂遠うゑんのようで実はいちばん緊急だということも、言えるのではないだろうか。

しかし、それにしても実際の歴史研究においては、「聞くこととしての歴史」は矢張り無用ではないかという疑念は、払拭あしよくし難いかもしれない。たとえば近代を規定する「産業革命」の歴史についての研究があるとしよう。それは何よりも実証的で厳密な史料調査にもとづく考証であり、記述である。どの地域で、どういう資源がどのくらい産出し、どのような交通手段を経てどのように分配され、いかなる経済圏を形成していったかという考証の、どこに「聞くこと」が要るだろうか。

しかしながら、データの積み上げだけからは、「産業革命」という名称は出てこない。この命名それ自体が、すでに蓄積されたデータを一定の仕方です「読むこと」を、したがってデータの語りを「聞くこと」を、不可欠としている。鈴木成高は『産業革命』のなかで、「本書は産業革命について、ただそれを記述しただけにとどまる」と述べた。しかし「記述」とは、すでに「語ること」にはかならない。鈴木は、どのように語ったのか。「文明の海洋史観」⁽⁴⁾で知られる現代の歴史家・川勝平太が、こう解説している。「著者は近代科学技術のもたらした生産革命の⁽⁴⁾フダンに進展してやまないすべての現象を産業革命という概念で包括する。これは当時の常識であった、一八〇〇年前後のイギリス産業革命の記述をもって産業革命論とする狭義の産業革命論に対する異論である」。川勝も認める鈴木のカッキテキ(5)な歴史見解は、史料の羅列だけからは生まれない。鈴木自身は、上の語につづけて、こう述べている。「それ（産業革命）について科学しまた哲学することは、残された別個の問題であろう」。鈴木は、この「別個の問題」に、歴史家として、立ち入った。それは、「聞くこととしての歴史」の胚性幹細胞が鈴木史学の根底に生きて、「歴史について科学しまた哲学する」細胞へと成育していったことを示すものでもある。

(大橋良介『聞くこととしての歴史』による)

(注) ○胚性幹細胞——あらゆる組織や臓器に分化する可能性のある未分化な細胞。分化した後は、それ自体は消滅する。

○照顧する——顧みてよく考える。

問1 傍線の箇所(1)(2)(3)(4)(5)の片仮名を適切な漢字に書き改めよ。

問2 傍線の箇所(ア)に「それが語り手から独立に存在するものでない」とあるが、それはなぜか、本文の内容に即して、三十五字以内で説明せよ。

問3 傍線の箇所(イ)に「それを自覚にもたらすことは現今の歴史意識にとって極めて重要な意味をもつ」とあるが、筆者は「歴史意識」に関する現在の状況をどのようにとらえているか、本文の内容に即して、四十字以内で説明せよ。

問4 筆者の主張する「聞くこととしての歴史」とはどのような営みであるか、本文全体の趣旨をふまえて、八十字以内で説明せよ。

問5 筆者は自己の見解を提示する際に、どのような方法で論述を進めているか、本文全体の構成をふまえ、本文中の「しかし」「疑義」などの言葉の用い方にふれながら、六十字以内で説明せよ。

問題を解くのに
かかった
おおよその時間

分

数 学

I 注 意 事 項

- 1 監督者の指示があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 この問題冊子は 12 ページあります。問題は ① ② ③ の 3 題あります。問題冊子の白紙のページや問題の余白は適宜利用してかまいません。落丁、乱丁または印刷不鮮明の箇所があったら手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答は、必ず黒鉛筆（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペン・万年筆などを使用してはいけません。
- 4 2 枚の解答用紙がこの冊子には含まれています。監督者の指示に従って試験開始の前に解答用紙 ① の表と裏、解答用紙 ② の表の指定欄に、クラス、出席番号を記入しなさい。

記入例

3 組 5 番 → 0305 D 組 31 番 → 0431

- 5 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
① は、裏表紙の解答上の注意を参考にして、黒鉛筆（H, F, HB）で解答欄にマークしなさい。
② は答だけでなく途中の過程も記入しなさい。
③ は指示通りに解答欄に記入しなさい。
- 6 ① ② ③ の各問題を解くのにかったおおよその時間を問題用紙の所定の欄に記録しておいて下さい。
- 7 解答用紙の解答欄に、関係のない文字、記号、符号などを記入してはいけません。また、解答用紙の欄外の余白には、何も書いてはいけません。
- 8 解答用紙は、持ち帰ってはいけません。試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。ただし、問題を他人に知らせたり、公開してはいけません。インターネットでの公開、SNS への投稿等は厳禁です。

II ① の解答上の注意

解答上の注意は、裏表紙に記載してあります。この問題冊子を裏返して必ず読みなさい。

——このページは白紙——

— このページは白紙 —

1

$\triangle ABC$ において、 $AB=AC=10$ 、 $\cos \angle BAC = \frac{4}{5}$ とする。辺 AB の中点を D とする。

(1) C から AB に垂線をひき、垂線と AB との交点を H とする。

このとき、 $AH = \boxed{\text{ア}}$ 、 $CH = \boxed{\text{イ}}$ であり

$$BC = \boxed{\text{ウ}} \sqrt{\boxed{\text{エオ}}}, \quad CD = \boxed{\text{カ}} \sqrt{\boxed{\text{キ}}}$$

である。また

$$\angle BCD = \boxed{\text{クケ}}^\circ$$

である。

(2) B において直線 AB に接し、 C において直線 AC に接する円の中心を O とする。

CD と円 O との交点のうち C と異なる方を E とする。

$\triangle BDE$ と相似な三角形は、次の ①~③のうち $\boxed{\text{コ}}$ である。

① $\triangle ABC$

② $\triangle CDB$

③ $\triangle CAE$

④ $\triangle ACH$

($\boxed{\text{イ}}$ は次ページに続く。)

したがって

$$BE = \frac{\boxed{\text{サシ}} \sqrt{\boxed{\text{ス}}}}{\boxed{\text{セ}}}$$

である。よって

$$AE = \frac{\boxed{\text{ソタ}} \sqrt{\boxed{\text{チ}}}}{\boxed{\text{ツ}}}$$

であり、 $\triangle ABE$ の面積は

$$\frac{\boxed{\text{テト}}}{\boxed{\text{ナ}}}$$

である。

AE の延長と円 O との交点のうち E と異なる方を F とするとき

$$AF = \boxed{\text{ニ}} \sqrt{\boxed{\text{ヌ}}}$$

である。

問題を解くのにかった
おおよその時間

分

2

$0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ として、 x の関数 $f(x)$ を

$$f(x) = x^2 + \frac{2\cos\theta}{\sqrt{3}}x - 2\sin\theta$$

と定める。 x が整数を動くときの $f(x)$ の最小値を $m(\theta)$ とおく。

- (1) θ が $\cos\theta \geq \frac{\sqrt{3}}{2}$ を満たす場合に、 $m(\theta)$ が最小となる θ の値を求めよ。
- (2) $m(\theta)$ が最小となる θ の値と、そのときの最小値を求めよ。

問題を解くのにかった
おおよその時間

分

—— このページは白紙 ——

3

花子さんと太郎さんは、次の記事を読みながら会話をしている。

＝公園整備計画＝ 広場の大きさどうする？

〇〇市の旧県営野球場跡地に整備される県営緑地公園（仮称）の整備内容について、緑地公園計画推進委員会は15日、公園のメイン広場に地元が生んだ武将△△△△の銅像を建てる案を発表した。県民への憩いの場を提供するとともに、観光客の誘致にも力を入れたい考え。

ある委員は、「銅像の設置にあたっては、銅像と台座の高さはどの程度がよいのか、観光客にとって銅像を最も見やすくするためには、メイン広場の広さはどのくらいあればよいのか、などについて、委員の間でも様々な意見があるため、今後、実寸大の模型などを使って検討したい」と話した。



（写真はイメージ）

花子：銅像と台座の高さや、広場の大きさを決めるのも難しそうね。

太郎：でも、近づけば大きく見えて、遠ざかれば小さく見えるというだけでしょ。

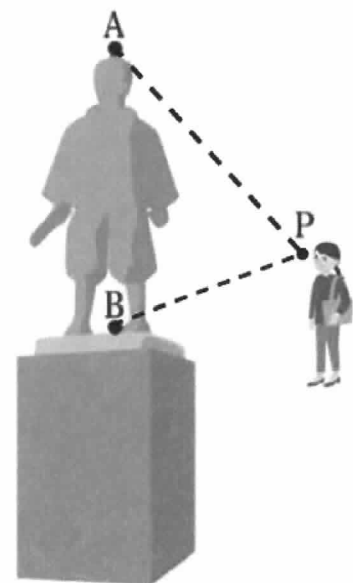
花子：写真を撮るとき、像からどのくらいの距離で撮れば、銅像を見込む角を大きくできるかしら。

見込む角とは、右図のように、銅像の上端Aと下端Bと見る人の目の位置Pによってできる $\angle APB$ のことである。

二人は、銅像を見込む角について、次の二つのことを仮定して考えることにした。

- ・地面は水平であり、直線ABは地面に対して垂直である。
- ・どの位置からも常に銅像全体は見える。

次の各問いに答えよ。なお、必要に応じて11ページの三角比の表を用いてもよい。



〔3〕は次ページに続く。

(1) 銅像の真正面に立ち、銅像の真下から 12 m 離れた位置から、高さ 1.5 m の台座に乗せた高さ 4 m の銅像を見る。このとき、目の高さが 1.5 m の花子さんの銅像を見込む角として最も近いものを、次の ㉔～㉑のうちから一つ選べ。 ア

- ㉔ 4° ㉕ 6° ㉖ 8° ㉗ 10° ㉘ 12°
㉙ 14° ㉚ 16° ㉛ 18° ㉜ 20° ㉝ 22°

(2) 銅像に近づいたり離れたりすると、見込む角の大きさは変化する。見込む角が最大になるときの、見る人の足元の位置を「ベストスポット」とよぶこととする。この「ベストスポット」について、太郎さんは次のように考えた。

【太郎さんの考え】

3点 A, B, P を通る円の半径を R とすると、AB の長さは常に一定であることから、 $\angle APB$ が鋭角ならば、 $\angle APB$ が最大となるのは、 R が最小のときである。

(i) $\angle APB$ が鋭角であることを確かめる方法を、 $\triangle APB$ の 3 辺の長さ AB, AP, BP についての式を用いて説明せよ。解答は、解答欄 (あ) に記述せよ。

(ii) **【太郎さんの考え】** が正しいことは、 $\sin \angle APB, AB, R$ を用いたある関係式と、「 $\angle APB$ が鋭角のとき、 $\angle APB$ が大きくなるほど $\sin \angle APB$ の値は大きくなる」ことからわかる。その関係式を答えよ。解答は、解答欄 (い) に記述せよ。

(3) は次ページに続く。

(iii) 二人は【太郎さんの考え】について先生に相談したところ、 R が最小になるのは、3点 A, B, P を含む平面上において、3点 A, B, P を通る円と点 P を通り直線 AB に垂直な直線が接するときであることを教えてもらった。

この考え方に基づくと、目の高さが 1.5 m の花子さんが、高さ 6.5 m の台座の上に乘せた高さ 4 m の銅像を見る「ベストスポット」となるのは、3点 A, B, P を通る円の半径 R が m になるときである。

① に当てはまる数を答えよ。

② このときの見込む角として最も近いものを次の ①～⑩のうちから一つ選べ。

- | | | | | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| ① 11° | ② 13° | ③ 15° | ④ 17° | ⑤ 19° |
| ⑥ 21° | ⑦ 23° | ⑧ 25° | ⑨ 27° | ⑩ 29° |

③ このときの銅像の真下と「ベストスポット」の距離は、およそ m である。

に当てはまる最も適当なものを、次の ①～⑩のうちから一つ選べ。

- | | | | | |
|-------|-------|--------|--------|--------|
| ① 3.7 | ② 4.7 | ③ 5.7 | ④ 6.7 | ⑤ 7.7 |
| ⑥ 8.7 | ⑦ 9.7 | ⑧ 10.7 | ⑨ 11.7 | ⑩ 12.7 |

問題を解くのにかった
おおよその時間

分

三角比の表

角度	sin	cos	tan	角度	sin	cos	tan
0°	0.0000	1.0000	0.0000	45°	0.7071	0.7071	1.0000
1°	0.0175	0.9998	0.0175	46°	0.7193	0.6947	1.0355
2°	0.0349	0.9994	0.0349	47°	0.7314	0.6820	1.0724
3°	0.0523	0.9986	0.0524	48°	0.7431	0.6691	1.1106
4°	0.0698	0.9976	0.0699	49°	0.7547	0.6561	1.1504
5°	0.0872	0.9962	0.0875	50°	0.7660	0.6428	1.1918
6°	0.1045	0.9945	0.1051	51°	0.7771	0.6293	1.2349
7°	0.1219	0.9925	0.1228	52°	0.7880	0.6157	1.2799
8°	0.1392	0.9903	0.1405	53°	0.7986	0.6018	1.3270
9°	0.1564	0.9877	0.1584	54°	0.8090	0.5878	1.3764
10°	0.1736	0.9848	0.1763	55°	0.8192	0.5736	1.4281
11°	0.1908	0.9816	0.1944	56°	0.8290	0.5592	1.4826
12°	0.2079	0.9781	0.2126	57°	0.8387	0.5446	1.5399
13°	0.2250	0.9744	0.2309	58°	0.8480	0.5299	1.6003
14°	0.2419	0.9703	0.2493	59°	0.8572	0.5150	1.6643
15°	0.2588	0.9659	0.2679	60°	0.8660	0.5000	1.7321
16°	0.2756	0.9613	0.2867	61°	0.8746	0.4848	1.8040
17°	0.2924	0.9563	0.3057	62°	0.8829	0.4695	1.8807
18°	0.3090	0.9511	0.3249	63°	0.8910	0.4540	1.9626
19°	0.3256	0.9455	0.3443	64°	0.8988	0.4384	2.0503
20°	0.3420	0.9397	0.3640	65°	0.9063	0.4226	2.1445
21°	0.3584	0.9336	0.3839	66°	0.9135	0.4067	2.2460
22°	0.3746	0.9272	0.4040	67°	0.9205	0.3907	2.3559
23°	0.3907	0.9205	0.4245	68°	0.9272	0.3746	2.4751
24°	0.4067	0.9135	0.4452	69°	0.9336	0.3584	2.6051
25°	0.4226	0.9063	0.4663	70°	0.9397	0.3420	2.7475
26°	0.4384	0.8988	0.4877	71°	0.9455	0.3256	2.9042
27°	0.4540	0.8910	0.5095	72°	0.9511	0.3090	3.0777
28°	0.4695	0.8829	0.5317	73°	0.9563	0.2924	3.2709
29°	0.4848	0.8746	0.5543	74°	0.9613	0.2756	3.4874
30°	0.5000	0.8660	0.5774	75°	0.9659	0.2588	3.7321
31°	0.5150	0.8572	0.6009	76°	0.9703	0.2419	4.0108
32°	0.5299	0.8480	0.6249	77°	0.9744	0.2250	4.3315
33°	0.5446	0.8387	0.6494	78°	0.9781	0.2079	4.7046
34°	0.5592	0.8290	0.6745	79°	0.9816	0.1908	5.1446
35°	0.5736	0.8192	0.7002	80°	0.9848	0.1736	5.6713
36°	0.5878	0.8090	0.7265	81°	0.9877	0.1564	6.3138
37°	0.6018	0.7986	0.7536	82°	0.9903	0.1392	7.1154
38°	0.6157	0.7880	0.7813	83°	0.9925	0.1219	8.1443
39°	0.6293	0.7771	0.8098	84°	0.9945	0.1045	9.5144
40°	0.6428	0.7660	0.8391	85°	0.9962	0.0872	11.4301
41°	0.6561	0.7547	0.8693	86°	0.9976	0.0698	14.3007
42°	0.6691	0.7431	0.9004	87°	0.9986	0.0523	19.0811
43°	0.6820	0.7314	0.9325	88°	0.9994	0.0349	28.6363
44°	0.6947	0.7193	0.9657	89°	0.9998	0.0175	57.2900
45°	0.7071	0.7071	1.0000	90°	1.0000	0.0000	—

II ①の解答上の注意

- 1 解答は、解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークしなさい。
- 2 問題の文中の ア , イウ などには、特に指示がないかぎり、符号 (−, ±) 又は数字 (0 ~ 9) が入ります。ア, イ, ウ, … の一つ一つは、これらのいずれか一つに対応します。それらを解答用紙のア, イ, ウ, … で示された解答欄にマークして答えなさい。

例 アイウ に -83 と答えたいとき

ア	<input type="radio"/> ⊕ <input type="radio"/> 0 <input type="radio"/> 1 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 6 <input type="radio"/> 7 <input type="radio"/> 8 <input type="radio"/> 9
イ	<input type="radio"/> ⊕ <input type="radio"/> 0 <input type="radio"/> 1 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 6 <input type="radio"/> 7 <input checked="" type="radio"/> 8 <input type="radio"/> 9
ウ	<input type="radio"/> ⊕ <input type="radio"/> 0 <input type="radio"/> 1 <input type="radio"/> 2 <input checked="" type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 6 <input type="radio"/> 7 <input type="radio"/> 8 <input type="radio"/> 9

なお、同一の問題文中に ア , イウ などが2度以上現れる場合、原則として、2度目以降は、 ア , イウ のように細字で表記します。

- 3 分数形で解答する場合、分数の符号は分子につけ、分母につけてはいけません。

例えば、 $\frac{\text{エオ}}{\text{カ}}$ に $-\frac{4}{5}$ と答えたいときは、 $\frac{-4}{5}$ として答えなさい。

また、それ以上約分できない形で答えなさい。

例えば、 $\frac{3}{4}$ と答えるところを、 $\frac{6}{8}$ のように答えてはいけません。

- 4 小数の形で解答する場合、指定された桁数の一つ下の桁を四捨五入して答えなさい。また、必要に応じて、指定された桁まで ⊕ にマークしなさい。

例えば、 キ , クケ に 2.5 と答えたいときは、 2.50 として答えなさい。

- 5 根号を含む形で解答する場合、根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えなさい。

例えば、 コ $\sqrt{\text{サ}}$ に $4\sqrt{2}$ と答えるところを、 $2\sqrt{8}$ のように答えてはいけません。

- 6 根号を含む分数形で解答する場合、例えば $\frac{\text{シ} + \text{ス} \sqrt{\text{セ}}}{\text{ソ}}$ に $\frac{3+2\sqrt{2}}{2}$ と答えるところを、 $\frac{6+4\sqrt{2}}{4}$ や $\frac{6+2\sqrt{8}}{4}$ のように答えてはいけません。

8 H31.3.28 問題作成ワークショップ参加者アンケート結果

アンケート結果（人数）

所属	
高等学校	28
大学	0
その他	2
	30

参加について

研究報告	
参加	30
不参加	0
無回答	0
	30

WS	
作成ワークショップに参加	21
分析ワークショップに参加	5
不参加	3
無回答	1
	30

設問Ⅰ 研究報告（10時30分～12時00分）について

Ⅰ-1 研究報告について内容を理解できましたか	
できなかった	0
あまりできなかった	1
ややできた	11
できた	18
	30

Ⅰ-2 研究報告について今後の学習指導に生かせる知見が得られましたか	
得られなかった	0
あまり得られなかった	0
やや得られた	12
得られた	16
無回答	2
	30

※得られたこと（コメント）

分析、項目立てについて等、おろそかにしていた点の大切さを改めて実感致しました。

今後、国が目指す方向性＝実現にはまだ年数がかかるでしょうが。

I-3 研究報告について期待した内容に近いものでしたか	
近くなかった	0
あまり近くなかった	1
やや近かった	13
近かった	16
無回答	0
30	

設問II ワークショップについて 参加者27名

II-1 ワークショップについて進行は適切でしたか	
適切でなかった	0
あまり適切でなかった	2
やや適切だった	11
適切だった	13
無回答	1
27	

II-2 ワークショップについて今後の学習指導に生かせる知見が得られましたか	
得られなかった	0
あまり得られなかった	0
やや得られた	8
得られた	17
無回答	2
27	

※得られたこと（コメント）

作問の視点

今までなかなか勉強する機会の得られなかったエクセルの活用について大いに学ぶことができました。

II-3 ワークショップについて期待した内容に近いものでしたか	
近くなかった	1
あまり近くなかった	1
やや近かった	10
近かった	14
無回答	1
27	

III その他

・メール等、いろいろありがとうございました。前泊して参加（パソコン持って）するつもりではりきっていたのですが、昨夜から原因不明の腹痛（30分に一回）に襲われています医者に行こうと思います。

・（設問Ⅰ-3 期待した内容に近かったか、へのコメント）今後、大学個別の問題がどうなっていくかを具体的に知りたいと思ってきた。

・大きな成果を得ました。勤務校で紹介したいと思います。

・Bチームの量的測定（研究内容？）が正直よくわかりませんでした。私の能力の問題かもしれませんが…

・過去問がカバーできていない資質、能力をどのように測るかということと、問題の新奇性との兼ね合いを作問につなげる難しさを実感しました。詳細な分析結果や作問についての大変わかりやすい説明が有意義でした。

・ホームページなどに本日の内容をアップして頂いたら…。

・有り難うございました。

・2次元のチャート分析は大変に興味深く、有効だと感じました。

・国語科なのか小論なのか難しい問題だと感じました。アカデミックな知の養成をはかっていきたいと思います。

・データベースの完成、待ち望んでおります。

・本知見がテストとして授業として共有化できるような実現性のもつ枠組みを提示して頂ければ幸いです。新テストの知見とのリンクはすべきだと思います。折角の取り組みがもったいないです。

・大変貴重なご提案をありがとうございました。

・大変興味深く、時間が足りなかった。もっと時間をかけて取り組みたかった。

・（設問Ⅰへのコメント）WSは二つとも参加したかった。時間の都合やさまざまな制約があると思いますが、問題分析の解説が本当に興味深く、もっと話を聞きたかった。

・（設問Ⅱ-1 WSの進行は適切だったか、へのコメント）もっと時間がほしい。素晴らしい内容だっただけに。

・採点側、ループリックのようなものの側も示していただきたかったです。

・本日、大変ありがとうございました。大きな啓発を頂きました。有意義な一日でしたね。今後ともよろしく申し上げます。

・参加された先生方の知見をワークショップを通してお伺いできたことも大変収穫でした。ありがとうございました。

・とても勉強になりました。ありがとうございました。

・内容が盛りだくさんだったので、ワークショップにおいて考えたり対話する時間が少し足りなかったかな。

・最初、しっかりついていけるか心配でしたが、何とかなりました。ありがとうございました。

・難しい課題に挑戦された姿勢に共感します。このマトリクスが授業づくりにも役立つという話（学習の手引き）をもう少し聞きたかった。

・とても有意義でした。もう少しじっくり取り組みたかったです。もう一方のWSにも参加したかった。

・今後、本校あるいは自らの国語教育を見直していくにあたり、どのような視点で臨めばよいのかを学ぶことができました。泉先生のエクセルファイルの丁寧さ、本当にありがたいです。活用させていただきます。

・大変有意義でした。文科省のHPでは十分内容が理解されないのでは？このような内容と知っていればもっと多数参加したかったと思います。

・丁寧なご説明ありがとうございました。

・膨大な資料かつ丁寧なご説明で問題分析の手法を学ぶことができ、大変勉強になりました。中間、期末考査で今回のような詳細な分析ができるか（特に時間的制約によって）はいささか不安ですが、多少なりとも生かしていければと思います。